

高校生が取り組む花のまちづくり

公益財団法人全国学校農場協会 常務理事
千葉県立鶴舞桜が丘高校 教諭 風間 龍夫

1 はじめに

全国の農業高校は、現在約380校あり、農業高校としての特性を活かし、さまざまな地域活動に取り組み、そのなかでも花いっぱい運動、花のまちづくり活動は多くの学校が取り組んでいる。農場協会の例年の調査では3割程度の学校が行っていると回答し、近年ではまだ少数であるが花育にも積極的に取り組む学校もある。農業高校における花いっぱい運動は、活動形態はさまざまであるが、学校で育てた花壇苗をプランター等に植えて近隣の商店街、駅、市役所、病院、小中学校等に飾ったり、地域の花壇植えを行っていることが多いようである。以下、千葉県立上総高等学校の事例を中心に、全国の農業高校の取り組みを数校紹介する。（注 農業高校は農業関係高校とも言い、農業単独校、普通科等の他学科との併置校、総合学科校からなる。）

2 千葉県立上総高等学校(君津市)の事例

活動の概要

本校は房総半島の中ほど君津市にあり、園芸科1クラス、普通科3クラスの学校である。花いっぱい運動は学習の成果を地域に働きかけ、農業高校生ならではの活動ということで始めたのがきっかけである。平成8年に君津市役所に鉢花を飾ったことから始まり、その後後輩へと代々引き継がれ活動を発展させてきた。なかでも、平成10年2月に、開通直後の東京湾アクアライン「海ほたる」を菜の花で飾ったところ、新聞各紙で「海ほたるは春まっさかり！」などと紹介され大きな反響を呼んだ。平成15年には千葉県で開催された全国植樹祭で上総高校は草花装飾に寄与し、植樹祭にご臨席された天皇、皇后両陛下がその帰路、「海ほたる」花壇をご覧になられるという栄誉にもあずかった。

活動は、自分たちで育てた花をプランターに植え、季節を通して、東京湾アクアライン「海ほたる」、君津市役所、君津中央病院、公民館、老人ホームなど多くの公共施設や地元の商店街な



東京湾アクアライン「海ほたる」(菜の花など春の花とクリスマスリースの飾りつけ)

どを飾っている。「海ほたる」を例に取れば、春はキンセンカ、パンジー、夏はニチニチソウ、秋はサルビアなどと季節の花を届けている。また、鉢植えのマスクメロンやアサガオのあんどん

仕立てを作ったり、12月はリースを飾り付けたクリスマスの装い、正月は門松で迎えるなど工夫をこらしている。また、「海ほたる」、君津市役所、君津中央病院など多くの場所で花壇作りも行っている。最近では木更津市国道脇や木更津駅などに市民団体と協力した花壇作りに力を入れ、君津市小糸公民館前並木道では地元小中学校、商店街、老人クラブ、行政機関など8団体と花壇作りを行っている。現在、地域には常時約500個のプランターを飾り、花壇は6箇所あり、年間プランター総計約2千個を飾り、花壇苗約2万本を植え付けている。君津市役所、「海ほたる」には年間20数回も花を届けている。

全国規模の花コンクールで2年連続日本一！その他、数々の受賞も

花いっぱい運動は園芸科生徒による農業クラブの自主的な活動として展開され、数々の全国的な賞を受賞している。

日本花いっぱい協会などが主催の全国花いっぱいコンクール（学校の部）において、平成15年度は文部科学大臣奨励賞、16年度は内閣総理大臣賞を受賞した。17年度は農林水産省、国土交通大臣省が提唱し、日本花の会などが主催する全国花のまちづくりコンクールにおいて最高位の花のまちづくり大賞、農林水産大臣賞を受賞した。高校生が自主的な活動として市民と協力し花のまちづくりに取り組み、地域のセンター的な役割を果たし、活動を通じて社会性や問題解決能力を養い人間的に成長した点が高く評価された。全国規模の花コンクールでは2年連続の日本一となった。18年度は「緑の都市賞」において都市緑化基金会長賞を受賞し、花と緑あふれる街づくりをとおして地域との連携を図り、活動が地域のコミュニケーションの醸成に寄与した取り組みであり、全国のモデルとなると評価された。19年度はいきいき活動奨励賞文部科学大臣奨励賞、20年度は全国「緑の愛護のつどい」国土交通大臣賞を受賞した。その他にも数々の受賞をし、多くの団体から感謝状を贈呈されている。新聞、テレビ、雑誌等に取り上げられることも多く、地域では花の上総高校としてすっかり定着している。

地域と共に取り組む花のまちづくり

活動は、当初の「地域を花で飾ろう」から、自分たちだけの活動では限界があり、「地域と共に取り組もう」、さらには、「地域全体に広げよう」と発展している。活動を広げるなか多くの市民団体と連携を深め、上総高校が花のまちづくりのセンター的な役割を担うことができればと考えている。



木更津駅タヌキ花壇



学校近くの公民館前花壇の植付け

木更津駅前花壇作りでは高校生が街の活性化に貢献したとの評価を受けたように、地域づくりにおける本校の果たす役割は高く、地域からの要請は増している。平成17年には学校近くの君津市公民館前並木道に長さ80mにわたる花壇作りを、本校が中心となり、小中学校や商店街、老人クラブ、行政機関など関係8団体とで行い、その後も活動を継続し、学校・地域・行政とで地域一体となった取り組みになっている。

花いっぱい運動を農業学習に取り入れて

本校の花いっぱい運動の特徴は、生徒がアイデアを出し合い工夫しながら農業学習として取り組んでいること、高校生が地域づくりに地域と連携して活動していることである。

活動は学習したことをもとに地域に働きかけ、地域と交流し、そのことによって地域から学ぶという循環の中で行われている。花いっぱい運動をテーマに課題を設定し改善、発展させながら取り組んでいる。

今まで取り組んだテーマは、例えば「プランターに適した草花の選定」（参考資料1）では、数多くの栽培した40種類以上の草花について花のきれいさだけでなく水やりや花がら取りの難易度、開花期間など、利用し楽しむ人の立場を考え評価しデータを蓄積している。

「商店街の花いっぱい運動活発化」では、街の人たちから花の管理方法がよくわからないという声があり、実際、花が日中にしおれるなど問題があり、花の管理方法を説明した「花いっぱい通信」を発行してアドバイスしたり、生徒の審査で花コンテストを行ったりして改善した。今では日中花がしおれることはほとんどなく花の手入れは見違えるようによくなった。



君津中央病院チューリップ花壇



「海ほたる」ハートマークのバレンタイン花壇

「花壇のデザイン研究」では、病院では患者さんが心とむようにと虹をイメージした花壇、市役所花壇では毎年1月、干支の花壇、アクアライン「海ほたる」では2月はハートマークでバレンタイン花壇など高校生ならではのアイデアに富んだ花壇づくりに取り組んだ。学校近くの公民館前花壇では、各団体がクジラ、アヒル、カエルなどキャラクター花壇に取り組んだ。木更津駅前花壇では、「證誠寺の狸ばやし」にちなみ月夜に踊り出すタヌキ花壇を作り大好評だった。

現在は「人にやさしい育てる花壇作り」というテーマで、地域の人たちに誰もが参加して継続的な花壇作りをしてもらい育てる楽しみを知ってもらおうと、簡単な植え付け方法や管理方法の改善について研究している。こうした研究の成果は農業高校の農業クラブ研究大会、自治体の催し等で発表している。

(参考資料1)

表－1 上総高校でプランター栽培した春用草花

	かん水	花がら取り	病害虫発生	草丈	開花期間	播種期	その他	総合評価
オステオスペルマム	普	有	普	中	長	10月	水をやりすぎない、花壇用	B
ガザニア	普	有	普	中	長	10月	水をやりすぎない、花壇用	B
キンギョソウ(矮性)	普	有	普	中	中	1月	花殻取りが必ず必要で手間がかかる	B
キンセンカ(矮性)	普	有	多	中	長	10月	アブラムシ、ウドンコ病が発生しやすい	B
刈ササゲ・ムラサキ	少	無	少	低	長	9~10月	暗い場所では花が開かない	B
ストック(矮性)	普	無	普	中	中	9月	八重にするには八重鑑別が必要	B
デージー	普	有	普	低	長	7月	春になると旺盛に生育	A
ディモルホセカ	普	有	普	中	長	10月	水をやりすぎない、花壇用	C
ナバナ(菜の花)	多	無	多	高	中	9月	倒伏しやすい。早生を利用するとよい	B
刈ササゲ・ノースポール	普	無	少	中	長	9~10月	花壇に植えると種が落ち翌年も生育	A
パンジー	普	有	普	低	長	7月~	花色多く、春の花の定番、秋から咲く	A
ネモフィラ	普	無	少	中	短	8月	花期が短い	B
プリムラ・マコイデス	普	無	普	中	長	6月	春を告げ卒業式には欠かせない	B
ポピー	普	有	普	中	長	9月	直根なのでプランターには本来不向き	B
鑑賞ムギ	多	無	少	高	長	11月	葉斑入り品種有り、観賞用	B
※観葉植物								
オリヅラン	少	無	少	中	※長	冬を除けば、いつでも挿し木可能	屋内で、日照条件の悪い場所に向く。管理容易で、緑の癒し効果があり、屋内インテリアとして貴重。繁殖も容易で、長期間鑑賞できる。	B
ピレア	少	無	少	中	※長			B
シンゴニウム	少	無	少	中	※長			B

※かん水量(多い、普通、少ない)、花がら取り(有り、無し)、病害虫発生(多い、普通、少ない)

草丈(高い、中間、低い)、開花期間(長い、中間、短い)、総合評価(A、B、C)

※プランター栽培に適した草花について研究したもので、花壇用だけでなくディスプレイ用として取り上げたものもある。プランターは用土の量が限られているので、花壇苗には適していてもプランター栽培に向かないものがある。プランター栽培ではかん水を的確に行う、花がら取りが必要なものは怠らないなどに気をつける。

表 - 2 上総高校でプランター栽培した夏・秋用草花

	かん水	花がら取り	病虫害発生	草丈	開花期間	播種期	その他	総合評価
アサガオ	多	有	普	高	長	4~5月	あんどん作りにして好評、季節の花	B
インパチェンス	多	無	少	低	長	4~5月	ニューギニアインパチェンスも有り、挿し木容易	B
キク（ポットマム）	多	無	多	低	短	4月	摘心要、開花期間が短いのが難	C
コリウス	多	無	少	高	※長	3月	半日陰でも可、暑さに強、鑑賞期間長	B
コスモス（矮性）	多	無	少	高	長	7月	倒伏しやすい、矮性品種選択	B
ケイトウ（矮性）	普	無	少	中	普	3月	強光で色あせする	B
サルビア	多	有	普	中	長	春2月 秋7月	夏に生育衰える、乾燥でダニが発生しやすい、秋の花の定番、春から開花 ブルーサルビア（ファリナセア）	A
シロタエギク	普	無	少	中	※中	2月	寄せ植えや花壇の縁取りに利用	B
千日紅（矮性）	少	無	少	低	中	3月	ドライフラワーにも利用、花が地味	B
ダリア（矮性）	普	有	多	中	短	1月	種まき用、鉢栽培を利用、ダニ発生	C
ニチニチソウ	多	無	普	中	長	5月	暑さに強い、一部病気発生	A
ヒマワリ（矮性）	多	無	少	高	短	5月	季節性あるが、開花期間短い	C
ポーチュラカ	少	無	普	低	長	5~6月	挿し木、暑さにも乾燥にも強い	A
ペチュニア	多	有	普	低	長	2月~	切り戻しで何回も再生、花が雨に弱い、雨に強いほふく性のマニア、クレープあり	A
アンゲロニア	少	無	少	低	長	2月	暑さに強健。寒さにも比較的強い。	A
マリーゴールド	普	有	多	中	長	2月~	夏に生育衰え、乾燥でダニ発生しやすい	A
ラベンダー	普	無	少	低	短	挿し木	小低木、香りあり、さし木でふやす	B
ヘレニウム	少	無	少	低	長	2月	暑さに強健。寒さにも比較的強い	A
メランポジウム	多	無	少	中	長	2月	かん水大変、花壇向き	C
ペゴニア・センパフローレンス	普	有	普	中	長	挿し木	3月、播種9月、切り戻し再生	B

※かん水量（多い、普通、少ない）、花がら取り（有り、無し）、病虫害発生（多い、普通、少ない）
草丈（高い、中間、低い）、開花期間（長い、中間、短い）、総合評価（A、B、C）

本校の花いっぱい運動は、学習したことが人のためになるということで、体験的学習の新しい取り組みであり、地域に貢献する学習活動でもある。地域に認められ、評価され、生徒の学習意欲の向上に大変効果的である。人とのふれあいをとおして共に生きることを学び、社会性・人間性の向上をめざして幅広い総合的な学習として行うことができる。



学校近くの公民館前花壇の手入れ



小学生とプランター作り

花づくりは 人づくり 街づくり 地域づくり



木更津駅「狸ばやし花壇」を中心に練り歩く夏祭り

平成17年度の全国花のまちづくりコンクールでの授賞式において審査委員長の琉球大学比嘉照夫教授から「上総高校の活動は社会的な財産である」との講評を受けたり、農文協発行の「農業教育」において、「上総高校の花いっぱい運動を中心とした一連の活動は、地域の園芸コーディネーターとして、地域の人びとのなかに園芸を楽しむライフスタイルの裾野を広げ、園芸文化の力を高める活動でもある。」と評されている。こうした評価に生徒ともども励まされ、「花づくりは 人づくり まちづくり」を合い言葉に、継続は力なりと、今後も息の長い地道な活動を続けていきたい考えである。

(記載は平成23年度まで千葉県立上総高校に在職した風間龍夫による。)

3 青森県立弘前実業高等学校藤崎校舎(南津軽郡藤崎町)の事例

(記載 教諭 北畠 顕嗣)

活動の概要

本校舎（平成20年度より校舎化、旧藤崎園芸高校）はりんご科1クラスの学校であり、学校活性化推進のために、地元藤崎町と協力をして平成5年度より「花いっぱい運動」として、町内の官公庁、幼稚園、保育園、小中学校や町内花壇に花植え活動を行っており、地域の10個所におよそ6,000本（プランター500個含む）の草花苗を提供している。

地域の方々と一緒に花を植えるボランティア活動を通して地域の景観の美化を図る。また、日頃の学習の成果を生かして、町内地域との交流を深め、豊かな心を育み、自信と誇りを持つようすることを目的としている。この事業は、地域の方々と協力して、美しい藤崎町の景観を作り上げることや、保育園等で花の種類や特徴を教えることで、町・町民・本校生徒との結びつきを強めている。

活動で注意している点

実際の活動場所は、遠いところはバス・タクシー等の交通機関を利用しているが、数kmのところは、自転車や徒歩で対応しているので、事故等には注意している。

活動上の問題点

日常的な管理は、各施設管理者、各学校の子供達が行っているが、地区町内会の花壇については、箇所によって日常的な管理が不十分のため、花壇が雑草に覆われてしまったりすることがある。



保育園への植栽指導



地域住民と一緒に町内花壇の花植え

4 福島県立福島明成高校(福島市)の事例

(記載 教諭 佐久間智子)

活動の背景と目的

本校の生物生産科施設園芸コース草花専攻班では、草花生産に関する学習と、その草花を地域活性化に生かす学習に取り組んでいる。

平成23年3月11日に起きた東日本大震災、そして東京電力福島第一原子力発電所事故問題から、本校のある福島市では放射能汚染の問題が深刻化した。福島市は吾妻連峰と阿武隈高地に囲まれ、盆地を利用した果樹栽培が盛んで、さらに全国から30万人を超える観光客が毎年訪れる花見山公園を中心に花の街づくりも目指す美しい地方都市であった。しかし震災後は市の人口や観光客入込数が大幅に減少し、花の街としての存続が危ぶまれた。

平成17年に起きた阪神淡路大震災では、被災後に「園芸療法」(第1次世界大戦後イギリスから生まれた植物を用いた心のケアをおこなう療法)が復興に用いられ、日本でも注目され始めた。植物を用いて見事な復興を遂げた神戸市や淡路島を手本とし、草花を市内の多くの場所に設置することにより福島市を復興させたいという考えから、本校草花専攻班は平成24年から福島市の花による復興活動に取り組んでいる。

活動範囲

草花専攻班 活動内容			
生産・販売	地域緑化	校内緑化	仮設住宅
<ul style="list-style-type: none"> ○季節の草花の生産管理 ○カーネーションやシクラメン、寄せ植えの販売会 	<ul style="list-style-type: none"> ○福島駅前への花時計作成 ○高速道路ICでの花壇作り ○ガーデニング教室の開催 ○市内へ花のプランター設置 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校正面玄関前に植物オブジェ作成 ○植物オブジェの手入れ、校内花壇の植栽 	<ul style="list-style-type: none"> ○仮設住宅内へ花壇の設置、植栽 ○草花を取り入れたワークショップの実施 ○仮設住宅の方々との交流会



JR福島駅前の花時計



仮設住宅での花壇植栽

活動の特徴

活動への取り組み時間は、科目「総合実習」「課題研究」等の授業内の時間を主に使う他、放課後や休日を利用し実施している。授業内では生産計画に基づいた実習内容がメインとなり、花時計作成や市内へのプランター設置などは放課後等の時間を活用、仮設住宅でのワークショップの実施や花壇整備は休日を活用しての取り組みとなっている。花時計作成は2年専攻生、仮設住宅支援は3年生と役割を分担し、授業を有効的に活用する他、継続して活動できるよう後継者の育成を考えての展開である。



学校玄関に花のモニュメント作成



サザエさん花壇を花見山に作成

学習への効果

生産活動以外の校外活動を加えることにより生徒は地域の方々と話す機会を得られ、コミュニケーション能力を向上させることができる。活動当初は人と会話するのが苦手だった生徒も、3学年半ばを過ぎた頃になると積極的に地域の方々と話す姿が見受けられる。また花時計やワークショップなど、「自分たちでデザインを考える」「企画を練る」経験をすることにより、より主体的に活動に取り組むことができ、問題解決能力も養うことができる。校外での地域交流活動は生徒自身の良い学習機会となっている。

活動の注意点

交流活動は実施することにより良い結果を得ていることは体験できるが、化学実験のようにそれを数値化して証明することは難しい。また活動内容を評価し見直すことも困難である。実施後のアンケートや生徒の感想などから今までは評価や改善をおこなってきたが、より客観的に判断し見直すためにKJ法や生徒への心情変化テスト（POMS）に取り組みせながらの活動をおこなうよう留意している。そうすることにより、より結果が解りやすく、生徒も理解し易く改善しやすいという効果が得られている。

今後の課題

東日本大震災後から始まった本校草花専攻班の取り組みは、福島市が本当に復興を遂げるまで続ける必要がある。そのため今後活動を展開するために必要な後継者の育成と、多くの人がこの活動内容を理解し取り組むことができるよう活動マニュアルを作成することが今後の課題である。生徒たちにとって良い学習機会となるよう、活動が地域に還元できるようこれからも尽力していきたい。

5 群馬県立富岡実業高等学校(富岡市)の事例

(記載 教諭 新木克彦)

活動の内容

富岡実業高校は生物生産科、園芸科学科、食品科学科、電子機械科の4学科各1クラスの学校であり、園芸科学科の課題研究および農業クラブの活動として草花部13人が次のような活動を行っている。

①富岡製糸場植栽交流活動

地元の文化遺産である富岡製糸場の大切さを小学生、幼稚園児に理解してもらうことを目標に富岡製糸場で植栽交流活動を行っている。11月には富岡製糸場内の花壇に地元の幼稚園、小学生138人とビオラを1000鉢、6月にはサルビアを1000鉢植栽した。

②プランター設置による地域の景観作り

富岡製糸場をイメージした木製プランターの制作を行い、それにサルビアの苗を植えたものを富岡製糸場と周辺の商店街の店先、地域の幼稚園や小学校に設置した。植栽に使った花は私たちが栽培指導を行い、幼稚園児、小学生と協力して種子から育てた物である。



富岡製糸場交流活動



幼稚園児とプランター植え

活動で注意している点

①富岡製糸場植栽交流活動

植え方の説明には手作りの紙芝居を行なった。紙芝居の内容を検討し、富岡製糸場の歴史や花の植え方についてオリジナルキャラクターを使い、子供たちに理解しやすく説明することができた。紙芝居が終わった後、内容が理解できたか質問したところ、元気のよい答えが返ってくるなど好評であった。

②プランター設置による地域の景観作り

花の種まきの際には、事前に企画書を作り幼稚園、小学校と打ち合わせをし、分担を決め子どもと離れないようにした。子供たちは初めての作業でも話を真剣に聴いてくれた。細かく指示をしなくても少し手伝うだけで、的確に作業に取り組めるように実施することができた。木製プランターは富岡製糸場のイメージに近づけるためにスプレーで煉瓦の凹凸を表現する等の工夫をした。

活動上の問題点

幼稚園や小学校との交流活動では時間に制約が多く、本来の授業を抜けて公欠で実施することが多い点が問題である。また、観光客の増加により、活動に制限がでてきている点も問題であり、今後さらに観光客が増えてくることが予想されるため、さらに活動に制限が出てくるのが予想される。

おわりに、私たち草花部は10年前から地元の文化遺産である富岡製糸場の世界遺産登録に向けて活動してきた。本年度は世界文化遺産に推薦され、本登録まで後一步である。

6 栃木県立宇都宮白楊高等学校(宇都宮市)の事例

(記載 教諭 天海 学)

活動の概要

農業系4学科・工業科・商業科・服飾科の、計7学科よりなる学校で、農業経営学科に所属する生徒を中心とした、外部交流活動の一環として実施している。

①市民団体及び、宇都宮市役所と連携し、宇都宮地区の緑化活動に取り組んでいる。

活動内容は、ハンギングバスケットの作成指導を年に3回実施。

②NPO団体の協力を得て、釜川沿いに、プランターを設置する活動。

③宇都宮工業高等学校と連携し、工業高校で作成したプランターに本校生徒が育成した花苗を植栽、地域の催事会場へ設置する活動等、多岐に渡る活動を行っている。

活動が始まってからまだ間もないが、現在では、市の催事において司会を本校生徒が任され、市の信頼も厚く、今後更なる展開が期待できると共に、地域緑化ボランティアの方々とも連携することで、本校の草花を通しての教育に、地域の方から共感を頂いている。



ハンギングバスケット



宇都宮工業高等学校との連携

活動で注意している点

本校における取り組みでは、本校生徒が単独で実施するのではなく、生徒と宇都宮市、他高等学校、地域ボランティア団体が連携し、地域の緑化活動に取り組んでいる。

生徒の学習機会と地域交流の観点で取り組んでいることを重視し、単なる労働作業とならないよう、生徒に各活動の目的を持たせる指導を徹底する。

活動上の問題点

作成・設置に関しては生徒が積極的に参加できる環境を保っている。しかし、設置後の管理に関しては、交通・授業時数の問題から、地域の方・施設管理者へ依頼することが多く、管理作業の学習機会が得られない。

また、資金を市に頼っている部分が多く、活動日時を市に合わせて行わなくてはならないため、生徒の他行事と重なり、参加できない生徒が出てしまう。

7 茨城県立水戸農業高等学校(那珂市)の事例

(記載者 教諭 宮地 富雄)

活動の概要

全日制7学科、昼間定時制1学科の8学科、全校生徒は860名ほどの農業高校である。「環境美化活動ボランティア」は、那珂市のボランティア団体「なかなか塾」が主催となり、水戸農高が協力をする形で実施している。「なかなか塾」は、明るい豊かな町づくりに寄与することを目的に那珂市に平成8年に設立された団体で、水戸農高では、道路ボランティアサポート事業に協力している。「道路里親制度」を活用して、県道那珂インター線の道路脇の雑草地を開墾して、花壇の整備や除草、道路清掃などの美化活動を実施している。水戸農高では、6月（マリーゴールド、サルビア、ペゴニア、ペチュニア）、12月（パンジー、ビオラ、ハボタン）の年2回植え付けを実施している。使用する草花苗は、水戸農高農業科で栽培した草花苗を1回で約2,000ポットを購入してもらっている。

「なかなか塾」から学校長宛に依頼文があり、農場部で受けて、係がとりまとめをしている。農業科草花専攻が窓口となって、学校全体に「環境美化活動」ボランティア募集をして、生徒、保護者名で承諾書の提出をしてもらい、事前指導をして活動している。事前指導では、生徒に、花は人を和ませてくれる力がある。高速道路を利用するドライバーの方々の心を和ませてくれ、安全運転につながることを期待して道路脇の花壇づくりをするという目的を話している。また、地域の方々も大勢参加するので、礼儀・マナー・言葉使いなども意識するように話している。

6月は、卒業学年の生徒が進路決定前の活動として多く参加して、約30名の生徒の応募がある。また、12月は、20名程度となっている。「なかなか塾」から近隣の那珂高校ボランティア部、なるみ園の協力依頼もあり、多い年は約80名の参加者となる。生徒の活動時間は、9時から13時頃となっており、ボランティア活動後に弁当が配布される。

数年前は、「とにかくたくさん植えよう」という意識で15時頃まで実施したこともあった。しかし、日陰や生育の悪い場所は、ヒマワリを播いたりして、効率的・効果的な方法に変



平成24年12月8日 ハボタン植え付け



平成25年6月22日 ペゴニアなど植え付け

活動上の問題点

①かん水施設の設置が必要

花壇にかん水施設がなく、6月はビニールマルチをして植えているが、根付き、生育が悪い場合もあり、かん水施設があるとさらに作業効率が良くなり、立派な花壇ができると考えられる。

②雑草防除

植え付け後の雑草防除は、「なかなか塾」が行っている。夏期は、特に雑草防除が大変である。

8 神奈川県立中央農業高等学校(海老名市)の事例

(記載 教諭 高橋晋太郎)

活動の概要

本校は神奈川県ほぼ中央に位置する海老名市にあり、創立107年を迎える園芸科学科2クラス、畜産科学科1クラス、生産流通科（今年度から新学科の農業総合科へ）2クラスの3学科5クラスで生徒数577名の農業高校です。

園芸科学科では、授業や部活動を通して、単に草花を育てるだけでなく、荒地だった正門に40メートルもの花壇を製作し、栽培した草花を使用して四季折々の花を地域の方々に楽しんでいただいています。農業高校らしい花壇として、年間100種類の草花が咲き乱れる花壇を目標に管理を行い、新聞にも掲載されるほど立派な花壇へと成長しました。

農業クラブの専門研究部に所属する草花部では農業高校で学んでいる技術をもとに、地域の方々との交流の機会を持ち、「自分たちにしかできない活動を展開したい」という思いから、公共施設花壇作りなどの地域活動を展開しています。

公共施設などの花壇植栽では、放課後や休日に学校で栽培した草花を使用して地元海老名市役所（10コンテナで年間400ポットの草花苗使用）や東名高速道路海老名サービスエリア（年間1,000ポットの草花苗使用）、海老名消防本部（年間200ポットの草花苗使用）の花壇植栽を行っています。四季折々の花を使用し、年間を通して管理しています。さらに、特別養護老人ホームにも10個のプランターを季節ごとに設置し、お年よりの方々に季節の変化を楽しんでいただいています。平成元年から継続して25年目になります。



海老名消防本部花壇植栽



海老名サービスエリア花壇植栽

活動で注意している点と効果

当初は多くの方が楽しんでくれればと、花壇の植栽を行っていましたが、花壇にたばこの吸い殻や空き缶が捨てられていたり、植えた花が踏まれていたり引き抜かれたりと、現実には厳しく、放課後や休日を割いて花壇植栽を行っていた生徒達にとっては、悔しさや、むなしさを感じさせるものとなってしまいました。そんな花壇植栽も、作業中かけていただく「いつもありがとうね」「きれいになったわ」などの温かい言葉に、生徒たちは「中農生の花壇を楽しみにしてくれている方もたくさんいる。」「これからも頑張ろう!」という気持ちになってくれました。生徒が学んでいる技術が、社会の役に立ち、生徒は「自分たちが必要とされている」という、自己有用感が芽生えています。そして、農業高校で学んだ技術を生かしての活動は、「花を通して多くの人を

笑顔にすることができた」という大きな達成感や自信となって生徒たちに返ってきています。

現在では、農業高校らしく、四季を感じられる花壇の植栽ができるよう、日々草花の勉強に励んでいます。

活動の問題点

このような活動は、ボランティア活動であるため休日返上を覚悟で取り組まなければなりません。さらに、地域活動は、継続性や、長く続けることが最大のポイントになります。花壇の維持管理や、雨天時の計画の変更など、予備日を設けて活動できるように予定を組むこと、継続して行っていくための職員の体制作りなどが課題です。

9 神奈川県県立吉田島総合校(足柄上郡開成町吉田島)の事例

(記載者 草花部部长 2学年 秋山由里)

農業クラブ草花部の一年間の活動

私達は、地域への草花を通してのボランティア活動をしています。日頃私達が育てた植物を利用して、地域への行事等に積極的に参加協力し役立ててもらおうという活動です。特に最近では、卒業式の飾花指導が、大きな活動の中心になっています。開成町の公立学校5校の他に今年は新たに、他の市町村の小中学校3校も飾花しました。

そのほか、開成町の幼・小・中学校でのパンジーの植え付けと栽培指導、年間2回の開成町駅前花壇の植え付け、開成町を明るくする会の講演会会場の飾花、小・中学校を含む5カ所のヒマワリの栽培・植え付け、心身障がい児者と家族の会のクリスマス会での飾花、開成町駅前交番の草花の植え付け、無料寄せ植え教室、コサージュ教室、食育紙芝居の上演・配布などです。



開成駅前花壇植え付け



幼稚園での植え付け指導

植物を通してのボランティア活動は、今年で17年目となります。無理のないように徐々に活動の幅を増やしてきました。本校の卒業式の花を利用した飾花活動も今年で4年目です。近年、飾花に参加する生徒や先生が増えました。しかし大変なのは花を飾ることではありません。花を栽培・管理することです。そこで今年から各学校の先生たちの手により夏休みに種まきを行ってもらいました。11月まで本校で栽培しその後、各学校にて卒業式用のプラ鉢に植え替えを行い、幼稚園児や園芸委員の生徒との交流を持ちました。開成町の幼・小・中学校ではパンジーの植え付け栽培指導も行いました。特に今年は積極的に出向き、交代でしたが、総日数が70日間行いました。自分達で栽培するより何倍も大変でしたが、やりがいを感じました。

地域貢献度

卒業式の花は、売れ残った生育の良くない苗を使用します。卒業式の飾花は3月です。少し大きめの鉢に植え替えてちょうど良い大きさになります。今年の卒業式の飾花では、TV神奈川や地域のケーブルTV、各社の新聞取材もありました。神奈川新聞では、卒業式飾花、食育紙芝居、開成駅前花壇と今年になり3度も取材していただきました。もちろん各行事は、開成町の広報でも紹介されました。



中学校卒業式飾花

どの行事も、私達の単独の活動ではなく、多くの人を巻き込んで活動しています。今年の開成駅前花壇の植え付けは松田警察署のスクールサポーターの皆さんと行き、非行防止キャンペーン（昨年秋も同様）も行いました。また平成25年度は、ボランティアスピリット賞関東ブロック賞を受賞し全国表彰式（12月23日国際フォーラム）に参加します。



非行防止キャンペーン

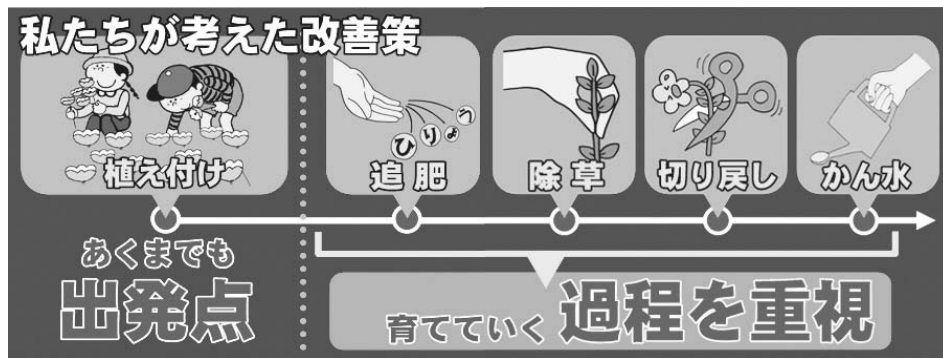


小学校での栽培指導

1年間の活動の中でもっともうれしかったのが、幼稚園の卒園式の時に園児達からもらった押し花のメダルです。10月と1月にパンジーの植え替え・交流会を持ったときに昨年のボランティアスピリット賞のメダルを見せたところ園児達が喜んでくれて、一人ひとりに手渡しで重たさを感じてくれました。また、2つあるのにもビックリしてくれました。園児達の一生懸命さや素直な心の中に真心を感じました。教える私達が反対に園児に教わることばかりでした。また卒園式から数日後、一人の卒園児から手紙が本校に送られてきました。あどけない字で書かれた「ありがとう」は、心にしみました。小学校に行くと生徒が気さくに話しかけてくれます。特に1年生は昨年一緒に花を植えた友達です。5・6年生の園芸委員の生徒も幼稚園の時に花を育てました。もちろん中学生も同じです。今年で17年目ですから開成町の住民の32歳までの人はこの活動を行なっているはず。私達の活動に重みを感じます。また、開成町の駅前花壇の植え付けに「参加協力したい」と申し出があり、松田警察署補導員、開成町スクールサポーター、開成町更正女性会等多くの人に参加してくださいました。今年の花壇の図案タイトルは「とびだせみらいへ」です。多くの人とつながり絆を深めることができました。噴水から何回水を運んで、手がちぎれそうな位冷たく重いバケツも、夏の暑いときの植え付け作業も地域の一人として当たり前の努力なのだと感じました。

10 おわりに

農業高校の花いっぱい運動は、小中学校等と異なり、自分の学校を飾ることにとどまらず、今回紹介したように、地域を花で飾る、花によるまちづくり活動を主に行っている学校が多く、しかも幼少中学校等や地域団体と連携しながら行っているようである。農業高校における学習は、普通高校の教科書を主体とした知識としての学習だけでなく、栽培や飼育をとおしての体験的学習を行っているが、近年では、農業体験学習、環境保全活動、地域特産物の商品化等、農業高校の特性を生かした多様な地域活動を積極的に行なっている。これらは地域貢献型学習とも言われ、地域の人と交流することによる、人とのふれあいをとおしての学習でもある。花いっぱい運動はまさにこうした活動であり、学習したことをもとに地域に働きかけ、そのことによって地域から学ぶという循環の中で行われている。花いっぱい運動は生徒がアイデアを出し合い課題解決型学習として展開でき、生徒に成就感、達成感を持たせることができる。また、生徒は活動が地域に認められ、評価され、学習したことが人のためになるということで学習意欲を高め、人とのふれあいを通して共に生きることを学び、社会性、人間性の涵養を図ることができる。



私は長年花いっぱい運動に携わり、地域の人と協力しながら行ってきたが、花を美しくしようとする人がいてこそ、花は美しくあることができ、花を真に楽しむことができると考えている。生徒の発表でも地域団体には花を植え付けて終わりではなく、植え付けた後も草取りや花がら取り、水やりなどの手入れをお願いし、効果的な方法も発案しながら、継続的な管理をしてこそ主体的な活動となり花を育てる楽しみを味わうことができると提案した。今後も、全国の農業高校生が地域と連携しながら花いっぱい運動、花のまちづくり活動が発展していくことを期待する。